

施策番号 5-1-3	施策名 国際・地域間交流の推進	基本目標	住民と行政がともに考え未来へつなぐ自治のまちづくり		
		政策名	多くの町民が関わり参加する自治のまちづくり		
	主管課	魅力創造課	課長名	西田昌樹	内線 412
	施策関係課	農林課・生涯学習課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
友好都市との交流による人材育成と交流を通して得られる情報をまちづくりに活かします。		町民・交流都市の住民	・友好都市との交流に参加し、異なる文化に触れ、情報を得ることによって、他地域の歴史・文化、まちづくりの手法などを学ぶことができる					交流を通じたさまざまな視点と情報の連携によるまちづくりをすすめる	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
①	他都市(トレーシー市・広尾町・揖斐川町)との友好・交流提携の事実を知っている町民の割合	%	71.5% 48.2% 50.7%	75.5% 48.0% 60.7%	68.8% 44.9% 58.1%	68.5% 41.5% 58.3%	66.8% 58.1% 62.1%	75.0% 50.0% 50.0%	
②									
③									
④									
成果指標設定の考え方	①トレーシーについては町民の3/4、広尾・揖斐川については町民の1/2に知ってもらおうことを目指す。								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	9,990	13,358	9,318	9,205	9,789
人工数(業務量)	0.4363	0.5577	0.1920	0.8005	1.2465

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①は、コロナ禍における事業停滞によるもの。 ②③は、成果指標などを意識した新たな事業実施を行った成果によるもの。
② 第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	①は、コロナ禍における事業の未実施により目標数値を達成することができなかったが、②③は、既存の人の交流を含め、新たなヒト・モノ・コトの交流を進めた成果であって、総合的に判断して目標は達成できたと考える。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	うみとやまのふれあい交流推進事業 揖斐川町交流推進事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	国際交流推進事業
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	国内の地域間交流に関しては、コロナ禍でもできる新たな交流事業を実施することができた。特に揖斐川町に関しては小学生の相互交流を基軸にした事業交流を前提としていたことから、事業の休止により停滞をまねがれなかったが、現在行っている職員の人事交流を活かし両町の新たな交流事業を模索した結果、新たなヒトとモノの交流を実施しPRすることができた。広尾町に関しては交流35周年目の節目交流を機に新たなヒトとモノの交流を実施しPRをすることができた。トレーシー市との交流については、同市からの受け入れ事業をメインとする芽室町トレーシー市交流協会の事業が交流事業の中止により滞ったが、新たな活動として町民活動支援センターが実施する活動紹介の場への参加によるPRができた。また同市から派遣されている英語指導助手と会員の交流により、会のモチベーション維持、新たな事業実施につなげることができた。		

担当課 評価	コロナ禍において活動停滞を余儀なくされた①を除いて、②③においては大きく前進をしたことから。施策全体として前進したと判断する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 コロナ禍により、地域間交流の原点に立ち返り、その意義をしっかりと見出した施策の推進、成果が望まれる。</p> <p>《今後の予測》 地域間交流の成果は「認知度の向上」になっているが、総合計画に記載のとおり、双方の人的交流から、双方の経済交流につなげるなど、その先の成果も求め、新たな事業展開していく必要がある。</p>
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<p>地域間交流をもっと町民にPRし、多くの町民が参加できるようにしてほしい。</p> <p>→一部の町民だけではなく、多くの町民の方が興味関心を示し、参加できる工夫をしていく。(SNSで発信など)</p> <p>R4実施した広尾町との給食交流は、もっと数を増やしたり、他の地域との給食交流も検討してはどうか。</p> <p>→食材の確保、食材費など課題があることから、継続検討事項とします。</p> <p>地域間交流をほかの地区に広げてみるのはどうか。</p> <p>→現在、広域連携事業で交流自治体がありますので、事業による成果を念頭に、進めていきます。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題)

<p>地域間交流は、単なる行政による交流事業だけではなく、さらにその先の双方地域にとってのメリットとなるような人材交流、経済交流、また民間同士の交流促進を見据えた交流事業の展開を図る必要があります。</p>

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	<p>トレーシー市との交流について、新型コロナウイルス感染症の影響により数年停滞しており、受入側もゼロベースとなっていることが想定される。再構築が必要である。</p>	<p>A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	コロナ禍で交流が難しい状況であったが、広尾町・揖斐川町との交流の周知は進んでいるため、「前進した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	<p>・北海道内で10自治体ほど台湾と友好都市を結んでいる。長いも等で経済交流もあり、芽室町も友好都市の締結を検討してはどうか。</p> <p>・広尾町との交流について、特産物の交流のほか、子どものバス学習など人的交流を深めていくべき。</p> <p>・高校生も交流を深める場を設けたほうがいい。</p>	<p>A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					